



\*\*\*\*\*

### 今年度の活動について

3月に「つるがも・ねっと」が発足して半年が経ちました。8月末現在で、29名の方（機関・団体としての入会も含む）が入会くださり、「つるがも」を支えてくださることになりました。お世話になります。よろしくお願いいたします。「つるがも」は、随時、入会を受け付けております。趣旨にご賛同くださる方のご入会をお待ちしております。

さて、「つるがも」のこれからについて、6月22日（木）の学習会において話し合いがもたれました。ここでは、話し合いのなかから、「つるがも・ねっと」の活動の目標と課題として提案されたことをご報告します。

#### <今年度の目標と課題>

##### 1. 「つるがも」を「会」として支えられるようにすること

「1」を達成するための課題は、運営体制の整備です。目下のところ、事務局の所在地もはっきりしていません。誰が、どのようにして運営するのかについても、はっきり決まっていません。まずは、世話人の間で役割分担を決めて会を運営していくことにしました。

##### 2. 支援をしている人たちの「顔合わせ」の機会をつくり続けること

「2」についての課題は、まずはこれまで通り、「学習会」を開き続けていくことです。互いに活動を知り合う学習会が、ほぼ、一渡り終わった段階だと思えます。「マンネリ化」せずに、多くの人に参加できるような場にしていきたいと思えます。具体的な課題に肉薄できる学習会にしたいとも思えます。もちろん、「ニュースレター」もこれまで通り、発行します。

##### 3. 声を掛け合う関係を、より、多く育むこと

「3」は、みなさんの日頃の活動が頼りです。「つるがも・ねっと」は、「みんなが、みんなの応援団」となることを目指しています。「つるがも」が育む「声を掛け合う関係」が、子育てをしているお父さん・お母さんにとっても、また、それを支援している人たちにとっても「応援」となるよう、ご協力をお願いします。

##### 4. 情報の発信ができるようにすること

「4」についての課題の一つは、子育て支援情報のデータベースの整備です。幸いにも、今年度も、筑波大学の研究室に対して、大学の社会貢献プロジェクトの助成が行われるようになりました。プロジェクトの課題に「子育て支援資源調査」を掲げています。その他、「ホームページを立ち上げたい」「『子育てべんり帳 子育てのわ』の改訂ができたらい」「活動予定を載せたカレンダーがあるといい」・・・そんな声も聞こえてきます。

焦らず、コツコツと、息の長い活動にしたいものです。

ヨチヨチ歩きの「つるがも」を、みんなで育てていきましょう。

# 🍀 「親子のコミュニケーションを育てる支援」について 🍀

## 第11回「かるがも・ねっと」学習会より

第11回(6月22日)の学習会では、「つくば市地域子育て支援センター」の喜多路江先生、「かつらぎ地域子育て支援センター」の小澤孝子先生、「子育て休憩室」の星埜祥子さんらから、子育て支援センターや子育てサロンのような支援の場を訪れる親子の様子をお話いただき、それを踏まえて、支援者ができる「親子のコミュニケーションを育てる支援」について、話し合われました。議論をすすめるなかで、親子のコミュニケーションにおける問題点が浮き上がり、さらに、これらの問題点への支援者の関わり方や、他の機関や団体を紹介する際の留意点や紹介先などについて、意見が出されました。

そこで今回のニュース・レターでは、これらの議論のなかから、親子のコミュニケーションにおける問題点とその対応、ならびに、他の支援機関につなぐ際の留意点、の二つについて、ご紹介していきます。

### 1. 親子のコミュニケーションにおける問題点とその対応 - 指導ではなく支援を -

支援者達は、支援の場を訪れる親子たちの様子から、親の「子どもに対する無関心さ」「子育てに対する自信のなさ」といった問題を感じているようです。

子どもに対して無関心な親への対応

ひとつめの「子どもに対する無関心さ」については、次のような様子が報告されました。

支援の場に来て、一人で携帯電話のメールをして過ごしたり、親同士のおしゃべりに夢中になったりと、子どもを構おうとしない親がいる。

親が子どもの遊ぶ様子を見ていないために、子どもが遊んでいるときにけがをしても気づかない。気づいたとしても、子どものそばに行くことはせず、自分は動かずに、「おいで」という声をかけるだけ。

さらに、日頃、子どもの様子をよく見ていないせいか、子どもに対する接し方がわからないという親もいるようです。

子どもがやってはいけないこと・危ないことをしていても、「だめよ」しか言わない。

トラブルを起こす子どもにどう接していいかわからず、とにかく怒る、抱きしめる。

こうした子どもに対して無関心な親に対する支援の仕方として、次にあげるように、できるだけ具体的な声かけや働きかけをするという方法が提案されました。

子どもに対して無関心なお母さんには、支援スタッフがお母さんの前に行って、子どもと一緒に遊んでみせる。

支援者が子どもに注意する時には、むやみに「だめ」というのではなく、「すると痛いよ」「落ちたら怪我をするよ」などと、具体的な言葉をかけ、その姿を親に見せる。

子どもがトラブルを起こした時も、真剣に怒るように親にアドバイスする。

子どもと遊ぶ姿や子どもを叱る姿を見せるといった働きかけを通じて、支援者は、親自身が学ぶ機会を提供しています。支援をする側は、親の姿にやきもきして、つい「教えて」あげたくなってしまいがちですが、「教える」「指導する」のではなく、見本を見せたりしながら、親が気づくように「支援する」ことの必要性が確認されました。

自分の子育てに自信がもてない親への対応

ふたつめの問題としては、「自分の子育てに自信がもてない」ことが挙げられました。

例えば、自分の子どもが他の子どもに乱暴な行動をしても、子どもを叱るより先に、相手の子どもに「ごめんなさいね」と謝ってしまう親がいるそうです。子どもの発達の状態を自分の責任だと思いこんでしまい、子育てに自信が持てず、謝ることが口癖になっているようです。

他にも、育児に関する本や雑誌に書いてあった情報をもとに、自分の子どもに障害があると思いきや、他人の声が耳に入らないほど、悩み込んでしまうという親もいるそうです。子どもが育つ様子を見る経験のないままに親になったため、育児マニュアルに頼らざるを得ず、結果的にそのマニュアルに振り回されてしまっていることが考えられます。



このような子育てに自信の持てない親に対して、支援者は、他の親子の様子を見るように勧めているようです。支援者が直に励ますよりも、実際に支援の場にいるさまざまな親と関わり、他の子どもの成長をみることによって、自信を回復し、自分の子どもの状態も冷静に受け止められるようになります。こうした「見守り」的な支援者の役割も重要であるといえそうです。

## 2. 支援をつなぐ際の留意点

また、こうした支援の場での働きかけだけでなく、どのように他の機関につないでいくかということも、議論のポイントとなりました。

例えば、子どもが発達上の問題を抱えていて、親もそのことで悩んでいる場合、どこか他の専門機関を紹介することが求められます。その際には、本人を責めたり、非難したりしないよう、相手の意志を大事にした言葉かけや、紹介のタイミングを見極めることが重要であるという話が出されました。

### こんな機関・活動もあります

対応が難しい場合には、以下のような専門機関や活動を紹介し、支援をつないでいくことができます。ここでは、学習会で提案された機関をご紹介します。

- \* つくば子育てサポートサービス（つくば市社会福祉協議会）  
… 一時的な預かりだけでなく、子育てについての悩みがあるという方の相談も受け付けています。お子さんと一緒に遊びながら、相談にのってくれます。
- \* 保健センター
  - ・ 子育てアドバイザー … 子どもの問題だけでなく、お母さんの精神的なサポートに対応してくれます。希望があれば、訪問相談も可能です。
  - ・ のびのび子育て教室 … ことばや発達面で心配のある子とその親を対象にした、親子遊びの教室です。豊里・茎崎の保健センターで受け付けています。

### ♪♪♪ 「大切なこと」を詩に託して ♪♪♪

- 図書の寄贈がありました -

5月25日付けの日本経済新聞で「かるがも・ねっと」のことが紹介されました。それを読まれた大阪府枚方市の榎崎さんから、2冊の本が送られてきました。詩人の高木いさおさんが書かれた、『愛することと優しさについて』（子ども出版・定価 1,000円）と『こどものために あいうえお』（子ども出版・1,200円）です。榎崎さんは、「誌を読み考える会」で、子どもが笑顔で暮らせることを願い、高木さんの詩を広める活動をしているそうです。

前の本から、一つ、私が気に入った詩、「上手になるより」を紹介しましょう。

上手になるより 大好きになる方が大切 / 上手に仕上げるより 気に入った仕上がりになる方が大切 / 上手に生きるより 楽しく生きる方が大切 / 上手に育てるより いつも笑顔でいられるようにする方が大切 / 上手に付き合うより 大好きになる方が大切

生きる上で「大切なこと」が詩になっています。考えさせられます。考えたくなります。

後の本は、「大切なこと」が「あいうえお」に託して、短い言葉で表されています。初めて文字に出会う子どもが、文字を覚えつつ、「大切なこと」に触れることができるように作られています。「大切なこと」は、子どもにとっても、大人にとっても変わりありません。ふと、口をついて出てくるような短い言葉のなかに、「大切なこと」が込められています。

私の研究室（TEL/FAX 029-853-4599、E-mail: hiroiida@sakura.cc.tsukuba.ac.jp）にあります。ご覧になりたい方はお知らせください。学びの場のテキストにいかがですか。

（飯田浩之）

## ♡♡お知らせ♡♡

今年度も「子育て支援を考える」を開催します！ぜひご参加下さい！

### 「子育て支援を考える 2006 ～子育て支援って何でも屋さん?!～」

「もっとこういう支援が欲しいのに、どうしてないのだろうか?」「いろいろあるのに、必要な支援が見つからない」、という支援を望む人たちの思い。

「個々のニーズに対してただサービスを提供するだけでいいのだろうか?」「子どもの育ちにとって、良い支援とは何だろうか?」、という支援する側の悩みや思い。

今行っている支援活動を振り返り、悩んでいること、大切だと考えていることを、お互いに共有しつつ、支援を望む人たちの思いと支援する側の思いを、どうつなげ、どう実現していくことができるのかを考えてみませんか。

今回の「子育て支援を考える 2006」では、助言者に、武藤陽子さんをお招きします。武藤さんは、自主保育グループでの活動の他、保育士、国分寺市の児童館やファミリーサポートの嘱託職員の経験があり、現在は NPO 法人「冒険遊び場の会」の代表をされています。様々な経験を踏まえたお話をいただけたと思います。

日時：2006年9月30日(土) 13:00～16:00

場所：インフォメーションセンター 大会議室(ノバホール隣)

参加費：500円 ※ 保育あり

問い合わせ：TEL：857-9037(つくば市地域子育て支援センターけやき広場)

E-mail：karugamo\_net@yahoo.co.jp

## イベントのお知らせ

### 「子育て・心の交流・コミュニケーション-親と子・子と子・人と人・そして地域へ-」

人間の発達・成長にとって大切な人と人とのコミュニケーション。それを阻害する大きな要因であると共に、脳への影響が懸念され乳幼児期からのメディア接触について、多様な分野の方から提案していただきます。

日時：2006年10月15日(日) 13:30～17:30(受付開始：13:00)

場所：筑波学院大学

参加費：2,000円(学生：1,000円)

#### <基調講演>

\* 門脇 厚司先生(筑波学院大学学長)

\* 武居 正郎先生(武居小児科医院院長・日本小児科医会「子どもとメディア」対策委員会委員長)

#### <シンポジウム>

\* 庄司一子先生(筑波大学教授 教育学 臨床心理士)

\* 小谷博子先生(東京電機大学 先端工学研究所 研究員)

\* 喜多路江先生(つくば市子育て支援ネットワーク かるがも・ねっと代表)

主催：「子育てに欠かせないコミュニケーションを考える」実行委員会

問い合わせ：090-8111-1008(矢野智子)



発行：つくば市子育て支援ネットワーク **かるがも・ねっと**

「かるがも・ねっと」は、つくば市にある子育て支援に関わる機関・団体・サークル、ボランティアのネットワークです。

発行日：2006年9月1日

編集：落合美智子・渡辺恵・丹治恭子

問い合わせ先：karugamo\_net@yahoo.co.jp / FAX：029-853-4829(筑波大学教育社会学研究室)